

# ACT NEWS

エー・シー・ティー ニュース

こんにちは！ACTニュース編集部です。今年もみかんが美味しい季節になりましたね。このACT NEWSは、湯河原町の小学校・中学校で実施されているACT（アート・コミュニケーション・トレーニング）という活動を保護者の方や町の方にも知ってもらうための新聞です。今回は記念すべき第10号。「湯フェス」とも称される、あのアクティビティも復活しました。それでは中学校での5月から9月までのACTを振り返っていきましょう！

ACT NEWS 第10号 2022年12月発行 発行元：湯河原町教育委員会・特定非営利活動法人 まなびとくらし

## ACTってなーに？

突然ですが、本来的に人の在り方というのは「いる→なる→する」の順番だと思います。例えば、生徒たちがどうやって学校生活を送っていくかという、まずは「いる」が出発点になります。教室にただ「いる」という時間があります。その後に友達と一緒に「いる」時間が生まれる。そこから自然と繋がりができていって、一緒に「いる」ことから、友達に「なる」のです。そして友達になった後は、一緒に何かを「する」こと、例えばグループ活動や運動会、合唱コンクールなどに繋がっていきます。

「いる」から始まった関係性やグループには「する」が上手ではなくても許されるという寛容さがあります。なので、人間は子どもでも大人でも「いる」が保証される場があること、そして、自分は「いる」だけで価値がある存在であるということは無意識に（でも切実に）求めるのかもしれない。

ACTのスタッフたち。それぞれに技術や能力、経験がある人たちです。しかし、そんなことよりも、私はその人の「そのまま」を大切にしています。もちろん「紙を配って」とか、そういった願いはします。でも、あとは「あなたのまま」でいてくれればいいと伝えています。なぜかというと、ACTでは「する」よりも「いる」を大事にしているから。この方がその人が持っている力を発揮しやすいのです。これは経験上間違いないと断言できます。

また、生徒たちがACTを支持してくれるのも、その人が「いる」だけでもいいから。行為に関係なく、存在してくれるだけ、いてくれるだけでありがたい。時にはそういう活動から「自分はここにいるんだ」という実感が得られることもあるのだと思うのです。

# 「ペーパータワーをたてよう！」



2022年5月10日(火)に3年生のみなさんと。

3年生の1回目は昨年度に実施できなかったペーパータワー。副題は「仮説と仮設」。

グループごとに決められた枚数のA4コピー用紙だけを使って、できるだけ高い構造物を作るアクティビティ。こうすれば建つんじゃないかと仮説を立ててから仮設し、崩れたらまた仮説を立てて仮設…と「カセツ」を

ひたすら繰り返すトライ・アンド・エラー（とりあえずやってみて、ダメならまた考えてチャレンジしよう）の気持ちを育む時間です。他グループの失敗を喜ぶ生徒はおらず、逆に自分たちの失敗を笑え合える人間関係をたくさん見ることができました。

生徒たちからは「今日は普段は考えないようなことを考えて楽しかった」「今日の作戦は失敗に終わったけど、やってよかった。アートは大事だと思った」「高くなっていくにつれ、一緒に協力してくれる仲間が必要になることに気づいた。みんなと修学旅行に行く前に仲を深められてよかった」「どんな挑戦でも最後に（仮）や（笑）をつけて取り組んでみると少し楽なる、そういう考えはいいなと思いました。面倒だから手を抜いてもいい（仮）ではなく、前向きに物事に進んでいけるとよい、という楽天的な意味合いであると思いました」などの感想がありました。

# 「あそんだ地図」

1年生の1回目。小学生の頃に「誰と、どこで、どんなあそびをしたか」を思い出して自分なりの地図として描き、最後にそれをグループ内で発表し合います。ちなみに地図を描いてそれを説明するという作業は想像以上に難しいものです。なのでうまく描けない、話せない生徒もたくさんいます。けど、そういう「できない」とか「うまくいかない」という場面は時に貴重な機会ですので「できるようにする」ことは原則しません。苦手は苦手でもいい。それよりも自分の話を聞いてもらった、友達の話が聞くことができた満足感。そういうコミュニケーションがあればいいのです。

みんなの感想です。「描いてみると思い出がたくさん出てきて楽しかった。友だちもたくさん思い出があって、聞いていて『どんなことをしてたんだろー』って考えたりするのも楽しかった」「今日の活動で、自分のことが分かった。



2022年5月20日(金)に1年生のみなさんと。

コミュニケーションをしたおかげで、自分のことを知ってもらえたし、みんなの『まさか』なことや意外なことも知れたので良かった」「自由に描いていいよと言われてたけど、地図を描くのは難しかった」「ふだん通る道には色々な思い出があるんだなと思った」などなど、少し前の自分を思い出すことで、今の自分たちを再確認していました。

## 「対話ってなんだろう」



2022年6月24日(金)に2年生のみなさんと。

2年生1回目は、2人1組になってロールプレイングで対話をします。AさんとBさん、それぞれの役割を伝えますが、お互いに相手の役割は知らされずに対話が始まります。1つめのワークでは、「相手の話を奪う／自分の話を奪われる」という場面を意図的につくります。2つめのワークでは、話し手は「話を

聞いて欲しいだけ」かも知れないのに、聞き手がアドバイスをしてしまう場面を意図的につくります。2つめのワークでは、話し手は「話を聞いて欲しいだけ」かも知れないのに、聞き手がアドバイスをしてしまう場面を意図的につくります。どちらも「ちぐはぐした対話」で、なんだかモヤモヤした気持ちになる時間。最後に対話では話す側以上に、聞く側の態度によって、その場の価値や意味が決まるという話をしました。

生徒の感想です。「自分が好きなものについて話している時、相手の子が話を遮ろうとして、ちょっとモヤっときた。これからは相手の話を遮らないようにしようと思った」「これはゲームだったから楽しかったけど、日常の対話で自分の話を聞いてくれなかったら、心が少し傷つくかなと思った。なので私も今までよりも人の話をよく聞いてあげたいと思った（あとすごく疲れた）」などなど。

## 「夢の鳥」

8組のACTは、心に感じたことをそのまま表に現し、それを講師や先生、友達に圧倒的に肯定される場を作ることによって、表現の楽しさを知り、それが生徒個々のウェルビーイング（良好な状態＝調和のとれた状態）へとつながっていくことを目指しています。

例えば、自分に対してポジティブな態度を持てること。他者とあたたかく、満足できる信頼関係を持てること。自己決定感を持てること。目標と方向性を持てること。そして、自分が成長し続けている実感を持てること。こういった感覚を芸術体験を通じて育んでいきたいと考えています。

その1回目は様々な種類の鳥の形を参考に想像力を膨らませ、自分だけの「夢の鳥」を立体で表現しました。まず資料を見ながらいろいろな鳥の色や姿、骨格の仕組みを知ることから。そこでの驚きや発見から制作を始めることで立体表現の幅を広げていきます。次に作りたい鳥のイメージを膨らませながら、



2022年7月5日(火)に8組のみなさんと。

針金とアルミホイル、紙粘土を使って体を作っていきます。最後に鳥の柔らかい羽の質感や色合いを感じながら、和紙で色彩表現することを楽しみました。テレビ取材が入ったりと、いつもと少し違う雰囲気の中でしたが、情熱と集中力で一人ひとりの個性が溢れる夢の鳥がたくさん生まれました。

## 「描くをかさねる」



2022年7月8日(金)に3年生のみなさんと。

3年生の2回目は、2人1組で1作品を制作。相互作用を体験するオイルパステルを使ったペアワークです。交互に1本ずつ、計6本の線を引き、それによってできた「形」を交互に塗っていきます。

ちょっとしたルールがありまして、①いずれも画面をしっかりと見ながら、②相手が引いた線に重ねること、③塗るときに形からはみ出すことを恐れない。そして、④相談しない。相手の気持ちを押し量るのではなく、間にある作品が求めるものを想像しながら、自分の作業を丁寧に進めていきました。

生徒たちの感想です。「相手のことを考えないで描くのは楽しかったし、感じ方が違って面白かった」「普段から人のことばかりを考えるのではなく、自分なりの意見や立場も大切の方が良いと気づいた」「自由にやるというのは、けっこう考えるなあと思った」「相手を気にしないというのは難しかった」などなど。互いに評価する／されることなく、共同作業できることの面白さの中に、遠慮や難しさも見え隠れする時間となりました。

## 「ダンボールハウス」

ACTの集大成とも言えるこのアクティビティが3年ぶりの復活！湯河原町の皆様のご協力が集まった、たくさんのダンボールを使ってクラスで1つの家を作ります。事前の話し合いも、設計図も、役割分担もない、まさにぶっつけ本番。その分いろんなやりとりが展開するエネルギッシュな時間です。今回は午前中に海外からのゲストが10名以上参加。それはもうカオスな面白さ爆発なACTとなりました。

感想には「出来上がった時の達成感がすごくありました。壊す時は悲しかったですが、それを含めて楽しかった」「最初から最後まで汗をかきながらみんなと協力して組み立てられて楽しかった」「普段はあまり話さない子に『ありがとう』とか言ってもらえたりして嬉しかった！」などがありました。



2022年9月16日(金)に3年生のみなさんと。

その場で、自分たちで決めていく即興的な創作活動を通して、知恵と工夫を出し合いました。普段には味わうことができない達成感を得ると共に協働作業を通して、クラスの間関係を深めていきました。

それではまた次号でお会いしましょう。皆様、どうぞ良いお年をお迎えください！